

開講計画 全5回／各90分

回	日付	曜日	10:30～12:00
1	10/1	火	(詩)ウォルト・ホイットマン『草の葉』 アメリカを作った詩だと言われています。 どういったアメリカが歌われているでしょう。
2	10/15	火	(小説)フランク・ノリス『オクトパス』 自然主義小説の代表です。 ジョン・ドス・パソスの長編小説『U. S. A.』にも言及しながら、 この小説を考えたいと思っています。
3	10/29	火	(小説)ジョン・アブダイク『走れ、ウサギ』(1960)、 『帰ってきたウサギ』(1971)、『金持ちになったウサギ』(1982)、 『ウサギの休息』(1990) ウサギというあだ名の主人公はどんなアメリカを生きたいでしょう。
4	11/12	火	(詩)アレン・ギンズバーグ『吠える』 ビート・ジェネレーションを代表する詩人は、 アメリカの何をどのように告発したのでしょうか。
5	11/26	火	(長編詩)チャールズ・オルソン『マクシマス詩篇』 アメリカの始まりが清教徒によるという常識を覆すとともに、 反資本主義の立場をも明らかにします。

受講料 8,500円

定員 20名

作家はアメリカをどう語ったか

アメリカ文学の特徴の一つは、アメリカを対象にして語ることです。つまり、小説家や詩人、そして劇作家はアメリカの本質が何であるのかを考え、自分の解答を作品にします。夢を実現する場所としてアメリカを見るホイットマン、悪に染まった救いようのない地獄と見るギンズバーグ。

これに、自然主義の観点からアメリカを見るフランク・ノリス、性愛に振り回される主人公ウサギを通して10年ごとのアメリカを描くジョン・アブダイク、アメリカは宗教でなく、漁業で始まったのだと主張し、建国史の書き換えを迫るチャールズ・オルソン、を加えた5人の作家がアメリカをどう語ったかを、作品を通して考えます。

講師

本学名誉教授
ひらの よしお
平野 順雄

テキスト・教材

プリントを配付します。

受講上の注意、受講日に持参するもの等

筆記用具、ノート